

新体操男子 採点規則 Q & A

Q 1 2019 年からのルール変更で実施の欠点基準と減点幅が変更になりましたが、これにより得点全体が低くなるのでしょうか？教えてください。

A この変更は採点をするうえで、下位層の差をつけにくいなどの問題点を解消するために改定されたものです。したがって全体的に下がるというよりは、身につけていない技術があれば減点されやすくなります。結果的には中位から下位層に少し厳しくなりますが、基本的な技術が身につけば、それに伴い得点は上がるようになります。つまり男子新体操の求める「体の動きの技術」で差がつくようになるということです。大まかな減点の目安のイメージは下表のとおりです。

選手のレベルと減点の目安

0	0.05	0.1	0.15	0.2	0.25	0.3	0.35	0.4	0.45	0.5
完璧な選手	ジャパン top	ジャパン 上位	ジャパン 中位	ジャパン 下位						
		IHトップ	IH上位	IH中上位	IH中位	IH中下位	IH下位			
			全ジュニ top	全ジュニ 上位	全ジュニ 中上位	全ジュニ 中位	全ジュニ 中下位	全ジュニ 下位		
								初心者 上位	初心者 中位	初心者 下位

Q 2 2019 年の改定で難度や技を入れすぎると得点が低くなると聞きましたが本当ですか教えてください。

A 近年、特に個人競技では多くの難度と難しい技をたくさん盛り込んだ演技に高い構成点が出る傾向がありました。このこと自体は問題ではないのですが、技をたくさん入れるために、新体操が最も大切にしなければならない「体の動きの種類と量」を著しく減らしている演技にも高い構成点が出ているという問題がありました。この点を是正するために構成欠点の項目に「徒手の割合が少ない場合」を盛り込み、0～0.3 の範囲で減点できるようにしました。

同様に実施でも技ばかりで運動の流れに欠ける演技は「全体を通じて運動のつながりの技術に欠けた場合」という項目で 0～0.5 の範囲での減点になります。（この項目は団体も共通です）

したがって難度や技を入れすぎると減点されるのではなく、技の入れ方やそのつながり方が悪いと減点されやすくなるということになります。

Q 3 歌詞ありの伴奏音楽が認められることで、今までのような歌詞なしが不利になりますか。また、どのような場合に不適切な音楽と判断されるか教えてください。

A 不適切かどうかの判断は審判員全員での判断に任されています。減点対象になるのは暴力的、差別的、卑猥な内容が含まれるもの、過度に受けを狙った歌詞を使った音楽です。

この変更は歌詞ありの伴奏音楽を推奨しているのではなく、選手が伴奏音楽を選ぶ際の選択肢を増やすためのものです。歌詞ありの伴奏音楽であるかどうかは得点に影響するものではありません。

ここで危惧されるのは、新体操の品位を損なうような歌詞が含まれた音楽を使用されることです。一般販売されている音楽は自主規制がとられているため不適切な内容は極めて少ないはずですが、インターネットの動画共有コンテンツなどにアップされている音楽や海外で販売されている音楽などには危険な内容ものもあります。使用する際には使用者が歌詞の内容を十分に確認し使用してください。

また歌詞に合わせた運動や運動を伴った表現は新体操の求めるところですが、歌詞に合わせたパントマイム的な動きやパフォーマンス的な動きは求めています。あくまでも新体操の動きを引き立てるための伴奏音楽であることが大切です。

笑いを取るために歌詞を利用したり、歌詞に合わせた過度なパフォーマンスは厳に慎んでください。

新しいルールがより豊かな男子新体操を作っていけるように、競技者の皆さんの協力をお願いします。

Q 4 団体競技の演技開始時の接触について、接触して演技をはじめ、一度離れて再度接触しても 3 秒以内であれば開始時の接触として扱うのでしょうか。それとも一度離れた時点で次の接触は転回系として数えるかを教えてください。

A 基本的には全員が一度離れた時点で接触は終わったものと判断します。ただし組運動のとばし技を再度受ける技などのように、空中で離れたものについては接触が継続しているものとして扱います。

Q 5 ジュニアルールでは自作した手具を使用してもよいとのことですが、ホームセンターなどで売られている木の棒を切って作ってもよいのか教えてください。

A ジュニア選手に自作手具の使用を認めているのは、体格の問題で検定品を使用することが危険な場合に限られています。その際スティックとロープは検定品を短く切って使用する、クラブの場合は自作は難しいため女子のものを使用可、リングは自作品でよいことになっています。

Q 6 ジュニアの団体競技で後ろとびひねり前方宙返り（ジュニアルールで c 難度）を 6 人で実施した場合の難度が D 難度になるという話を聞きましたが本当でしょうか。また 3 回連続バク転からの後ろとびひねり前方宙返りの難度も教えてください。

A どちらも c 難度になります。c 難度の技は 6 人で実施した場合に格上げになるという解釈をする人がいるようですが、6 人が実施して格上げになる技はルールブックに記載されているもののみです。ジュニアでは技術レベルが十分でない選手が競技をすることも多く、特にこの技は無理に実施すると着地で危険な状態になることが多いこともあり、6 人で格上げの対象からは除外しました。

Q 7 ジュニアの個人競技で後ろとびひねり前方宙返り（ジュニアルールで c 難度）から直ちに前方宙返りをした場合、難度は D 難度になりますが、その際手具を 2 回操作すると追加の難度の対象になるのでしょうか教えてください。

A D 難度の転回で 2 回手具操作になるので、追加の難度として 0.10 点加点されます。蛇足になるかもしれませんが、この技を団体で実施した場合、3 名が実施するだけでその転回は D 難度になります。シニアルールとの違いで間違えやすいので気を付けてください。

Q 8 クラブやリングの演技で 1 本を投げて前方宙返り、その宙返り中にさらにもう一本投げた場合、同時投げになりますか？また投げの回数は 2 回になりますか教えてください。

A この場合次々の投げになるため投げの回数は 2 回、同時投げには該当しません。

Q 9 クラブを次々に投げ、2 本とも 3 動作の後で受けた場合、追加の難度（2）の「D 難度の投げ受けを 2 本投げで行った場合」に該当するのか教えてください。

A この投げ受けは同時投げで行うよりも難しいと思われませんが、現行ルールの追加の難度は 2 本同時投げでの D 難度技を意味しています。したがってこの技は追加の難度の対象にはなりませんが、投げ受けの技術が高いという点でよい評価はされることになります。

Q10 ロープの移動を伴う跳びで、「6メートルの移動をする間に2回連続跳んで、ロープに引っ掛かり、さらにそこから2回跳んだ」場合は移動を伴う跳びの要素として数えられますか。

A 移動を伴う跳びの要素は「6m以上、3回連続以上」が条件です。質問の例では2回連続跳びですので要素には数えられません。

Q11 個人競技で徒手系難度をとる場合、2回の手具操作が必要ですか教えてください。

A 徒手系難度は手具操作がない場合は数えられません。したがって「回しながら、持ち替えながら、たたきながら、転がしながら、投げ受けをしながら、挟みながら」など1つでも操作すれば数えられます。ただし「足に挟んだままジャンプをし、着地をしてから手具を外す」など徒手系難度の間の手具操作にアクションがなければ数えられません。

Q12 団体競技でロンダードとバク転を3人ずつ同時にスタートした場合、同時スタートの転回として扱われますか。教えてください。

A 3人のバク転とロンダードの助走がおおむね同時であれば同時スタートの転回として認められます。ただし明らかにスタートにずれが生じている場合はその限りではありません。